

# Webアプリケーションのシボレス化

## Webアプリケーションのシボレス化

Webアプリケーションを修正することなく、HTTPサーバ（Apache）の設定や追加のプログラムのみでShibboleth化する方法としては、下記3つのパターンが考えられます。



以下の方法はいずれも「既存のWebアプリケーションを修正しない」ことに主眼を置いています。特に、シボレス認証された個人をWebアプリケーションの（個々の）ユーザに紐付けて扱うことはできません。  
（2.のProxyでIdPから受信した属性によって送信するID/パスワードを変化させる場合を除く）  
（また、3.の方法は一部Webアプリケーションに手を加えている（before\_filterの部分）という点で厳密に言うと上記に従っていません）  
Webアプリケーションを改変することが可能であれば、以下の方法ではなく、IdPからの属性を元にユーザセッション生成、必要に応じてユーザ作成などを行ってWebアプリケーションに引き渡す方法の方がお勧めです。

1. **特定のリソースをShibboleth認証されたユーザにのみ見せる**  
Shibbolethの導入のみで実現するパターンであり、特別にユーザ管理機能の構築は必要としません。
2. **既存のアプリケーションのユーザ管理へのProxy（代行システム）を用意する**  
既存のアプリケーションにユーザ管理機能が存在する場合、ユーザ認証をShibbolethに代行させる機能（ログインプロキシ）を構築するパターンです。
3. **Shibbolethのセッションをもとにユーザ管理を行う**  
ユーザ管理機能を新たに構築し、アプリケーションへのアクセスをユーザの持つ権限により制御したい場合のパターンです。

Shibboleth対応システム構築にあたっては、以下のログアウトに関する説明もあわせてお読みください。

⇒[ログアウト処理](#)